

テーマ：神様から主人と奴隷に与えられた責任とは何か？

○主従関係における奴隷の責任：主人に従うこと(22-25)

1. 態度：従うとはどのような姿なのか？(22-23)

2. 動機：従うとはどうしてなのか？(24-25)

●二つの動機：

1) 天の主人が\_\_\_\_\_を\_\_\_\_\_くださるから(24)

▶「報いとして」

※ローマ 3:24

「ただ、神の恵みにより、キリスト・イエスによる贖いのゆえに、価なしに義と認められるのです。」

▶「御国を相続させていただく」

※ガラテヤ 4:6-7

「そして、あなたがたは子であるゆえに、神は「アバ、父」と呼ぶ、御子の御霊を、私たちの心に遣わしてくださいました。ですから、あなたはもはや奴隷ではなく、子です。子ならば、神による相続人です。」

※ヤコブ 4:14-15

「あなたがたには、あすのことはわからないのです。あなたがたのいのちは、いったいどのようなものですか。あなたがたは、しばらくの間現れて、それから消えてしまう霧にすぎません。むしろ、あなたがたはこう言うべきです。「主のみこころなら、私たちは生きていて、このことを、または、あのことをしよう。」」

2) 天の主人が\_\_\_\_\_を与えられるから(25)

▶「不正」(アディケオ=ア「\_\_\_\_\_」+ディケオ「\_\_\_\_\_」)

「正しさとは、基準に従っていることを意味します。それゆえに、主人に仕える上で曲がったことをするのは不義であり、罪なのです。そして、それは様々な形を取ります。主人の命令に従わないこと、全力を尽くさないこと、間違った態度で仕えることです。主人から盗むこと、主人に嘘をつくこと、他の奴隷と分裂し、劣悪な労働環境を作ることです。それらは間違いであり、罪なのです。」(スティーブ・ローソン)

▶「不公平な扱い」

※エペソ 6:9

「主人たちよ。あなたがたも、奴隷に対して同じようにふるまいなさい。おどすことはやめなさい。あなたがたは、彼らとあなたがたとの主が天におられ、主は人を差別されることのないことを知っているのですから。」

※ヨハネ 5:24

「まことに、まことに、あなたがたに告げます。わたしのことばを聞いて、わたしを遣わした方を信じる者は、永遠のいのちを持ち、さばきに会うことがなく、死からいのちに移っているのです。」

※ヨハネ 10:28-29

「わたしは彼らに永遠のいのちを与えます。彼らは決して滅びることがなく、また、だれもわたしの手から彼らを奪い去るようなことはありません。わたしに彼らをお与えになった父は、すべてにまさって偉大です。だれもわたしの父の御手から彼らを奪い去ることはできません。」

※ローマ 8:1

「こういうわけで、今は、キリスト・イエスにある者が罪に定められることは決してありません。」

※2 コリント 5:9-10

「そういうわけで、肉体の中にあろうと、肉体を離れていようと、私たちの念願とするところは、主に喜ばれることです。なぜなら、私たちはみな、キリストのさばきの座に現れて、善であれ悪であれ、各自その肉体にあってした行為に応じて報いを受けることになるからです。」

▶「私たちはみな」「各自」

▶「善であれ悪であれ」

「悪という言葉は、散歩をする、買い物に行く、田舎をドライブする、更に上の学位を取得する、出世する、絵を描く、詩を読むなど、本質的には永遠の価値も罪深いものでもない、日常的なことを指しています。これらの道徳的に中立な事柄は、信仰者がキリストの裁きの座の前に立つときに裁かれるのです。神を賛美する動機で為されたものであれば、善と見なされます。利己的な利益のために追い求められたのであれば、悪と見なされるのです。」(ジョン・マッカーサー)

※2 テモテ 4:7-8

「私は勇敢に戦い、走るべき道りを走り終え、信仰を守り通しました。今からは、義の栄冠が私のために用意されているだけです。かの日には、正しい審判者である主が、それを私に授けてくださるのです。私だけでなく、主の現れを慕っている者には、だれにでも授けてくださるのです。」

## ○主従関係における主人の責任：奴隷に正義と公平を示すこと(4:1)

※ローマ 6:17-18

「神に感謝すべきことには、あなたがたは、もとは罪の奴隷でしたが、伝えられた教えの規準に心から服従し、罪から解放されて、義の奴隷となったのです。」